



読売歌壇

小池 光選

新聞の歌壇ファンに放り込み今日も行きます痔の治療に
横濱市 宮村 公子

【評】病院の待合室で待たされる時間は実に長く感ずる。この方は本欄の載った新聞をもつてゆく。癌の治療というところが強い。負けてなるものかという感慨が伝わる。
大阪市 西尾 照常

プリンセス歩むがごとく雌犬はふさふさこせる尻尾を振りつ
岡山市 西尾 照常

【評】相当大きな犬だろう。ふさふさとした尻尾を揺らし揺らし行く。動物とは思えないほどの気品と迫力がある。人間の方が思わす道を守る感じ。上句の比喩が端的でよい。
下松市 田中 昌子

めても翔平翔平
下松市 田中 昌子

【評】かの翔平選手はスポーツ選手、野球選手、手ノワクを越えて希望そのもののシンボルになった感がある。結婚報道でおおさららに。友はもう世におませぬと知りつつも今日も見える二階の窓を
高石市 出水美智子

木目込の雛人形は母の母そのまた母の作りたるらし
調布市 川久保洋子

「大部屋でいいですか」「はい」明日からは五階病棟の大部屋女優
仙台市 石川 初子

任職がペットボトルの水を飲みど湿らせて始める読経
つくば市 岩瀬 悦子

寒き日のおやじのような顔をして頬かむりしたゴッホの自画像
宮崎市 長友 聖次

自らが生きてることすら忘れてる母を見続けた窓の雲たち
筑紫野市 桂 仁徳

まんさくの枝を手折りに行きつけの床屋さんへと持ってゆくなり
仙台市 鏡 謙一

栗木 京子選

初午にお稻荷様への神饌を済ませばよいよ農始まりぬ
さいたま市 加藤 達明

【評】二月の最初の午の日に、農作を折って稲荷社に飲食物を供える。それからいよいよ農作業が始まるのである。曆と行事と労働とのうろわしい結び付きが詠まれた歌である。
上越市 吉村恵美子

早春の山踏み分けてマンサクの花くれし夫若き笑顔で
上越市 吉村恵美子

【評】早春の山地に他に先駆けて花を咲かせるマンサク。黄色い線形の花弁は健気で美しく見える。若き日の夫は愛情を込めて花を擗りてくれたにちがいない。結句が素敵だ。
西東京市 横石富士子

ひな祭ひな飾らずにあられ食みテレビのひな見る九十路のわれ
西東京市 横石富士子

【評】ひな人形は、飾るのも仕舞うのも大仕事。テレビで見ただけでも充分に楽しめる。あられを登場させたことで臨場感が出た。
新発田市 桐沢 茂

育牛の飼料袋に歌を書き酪農ヘルパーわれに春来ぬ
徳島市 片山真佐子

限りある命の行方惜しむ日のパセリの芽吹き飽かず眺むる
徳島市 片山真佐子

ウクライナ侵攻二年過ぎし日に「百万本のバラ」をひとり聴く
館林市 中山 隆二

延々とキーウの広場に戦死者の写真がつづく二年目の冬
鹿嶋市 大熊佳世子

懐に猫を抱きて戦場の慰みとせりウクライナ兵戦争を知らない子だと育ったがいままたに燃えてる世界の戦火
吉野川市 喜島 成幸

菜の花の果てに広がる丘の上樹木葬なる墓地があるらし
鹿嶋市 加津年根夫

俵 万智選

残雪に明るむ庭に遊びある保育園児は木の芽草の芽
青梅市 諸井 末男

【評】まもなくの春。はつらつと遊ぶ園児たちの様子が目につく。季節に合った結句のリズムが弾むように、また豊かな未来を感じさせて、園児の比喩にびったりだ。
吹田市 嶋島スジオ

この年は僕の観測史上初あなたの居ない春になったよ
吹田市 嶋島スジオ

【評】ニュースなどで耳にする「観測史上初」という文言を、自分ごとで用いたところがユニーク。大げさでふざけているようにも見える表現は、虚無感の裏返しだろう。
市原市 井原 茂明

野に生くるものの用心ツクミらのせつな啄みせつな見回す
市原市 井原 茂明

【評】小鳥の忙しい動きは、生きるため。下の句のリズムが、その忙しなさとうまく響きあっている。
上尾市 関根 裕治

多様性認めるとが多様性認めぬとを排除している
上尾市 関根 裕治

パンサイで一、二、一、二と歩く子をゴールテープのよに受けとめる
船橋市 矢島 佳奈

三月のどのあなたにも会えぬこと梅やミモザが咲いて散りたり
大和郡市 大津 穂波

好きな人に会いにいったらまた別の好きな人にも会えた書籍で
堺市 一條 智美

昆虫を捕るのが下手な君の手が強く結んだ靴ひもの蝶
高島市 宮園佳代美

さみどりの莢豌豆の筋とりはAIなんか任せられない
静岡市 海瀬安紀子

美容院で半年分の成長と別れて出会う新しいわたし
東京都 川平 啓子

黒瀬 珂瀾選

真夜中のコンビニみたいに灯ってる思い出がありふいに立ち寄る
川口市 牧 恵子

【評】二十四時間営業のコンビニは、不安な深夜にほっと一息つける場所でもある。そんな風に、ちょっとしんどい時に心を暖めてくれる思い出があるのだろう。共感します。
東京都 上原 厚美

授かりし「錬士」に恥じることなきや基本に返り切り返しやる
東京都 上原 厚美

【評】「切り返し」とあるので、剣道の称号を授与されたのだろう。名譽なことだが慢心せず、その地位に恥じぬ自分であるかと問い直す。剣士の心意気を見せて頂きました。
大阪市 黒田 道子

神前に頭を垂れる主待ちて後ろに伏せる犬静かなり
大阪市 黒田 道子

【評】神社にお参りする飼い主の後で、静かに控えている犬。なかなか賢そうなワンちゃんだ。静寂の景の中のほほえましさ。
千葉市 佐藤 綾子

正規のまま
千葉市 佐藤 綾子

仕事人間という一言で人生を括ってしまう君を悲しむ
久喜市 長谷川幸子

「思い上がり醒めないままに逝きました」二元部下達へ喪主の挨拶
日南市 宮田 隆雄

息ひそめ住みある峽のひとりの居に村を捨てよと言ふか風
群馬県 真庭 義夫

銀杏を妻と二人で剥いてある民話のやうな夜の温もり
岐阜市 後藤 進

目の前の箸を折りたい苛立ちを君の笑顔が救ってくれる
所沢市 青木 照子

義理チョコのひとつもなく空白が雪原みたいな一月の暦
生駒市 高橋 裕樹

◇投稿規定◇ はがき1枚に未発表の1作品。住所、氏名(ふりがな)、電話番号を明記。◇他の媒体、選者への二重投稿は厳禁です。選者が添削することもあります。〒103・8601、日本橋郵便局留、読売歌壇(俳壇)、〇〇先生(希望選者名)係または読売新聞オンラインから ◇毎週月曜日に掲載 右の影絵はつくし